



KAGAYAKU

かがやく

 題字：大版
西野一男さん

50

 生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー
 感動人生！ここに生きる元気な人間人ひと

 バックナンバーは
こちらのQRコード
からご覧になれます


50号記念特集『かがやく』って何？

かがやくとは？

市内で活躍するサークルや団体、また輝いている個人を紹介する生涯学習情報紙です。『かがやく』という名称には、「人間は学ぶ。行動することによって、ひかり輝く」という願いが込められています。

かがやくをどう活用するか？

かがやくを読み、気になるサークルや入ってみたい団体がありましたら教育委員会社会教育課へお問い合わせください。

(04-2964-1111

内線：4124, 4125)

かがやくをきっかけに生涯学習を始めてみませんか。

かがやくには、様々な学びのヒントがたくさん散りばめられています。



▲表紙デザインの変化（左から創刊号、20号、41号）

編集委員はどんなことをしているか？

かがやくは、市民の皆さんがボランティアで編集委員となり、積極的な取材活動により発行されているものです。

サークルや団体、個人の活動が目に見えるような文章になるよう、何度も推敲しています。編集委員会議ではお互いの文章を読み合い、より分かりやすい文章になるよう尽力しています。

かがやく編集委員は随時募集しています。興味のある方は、ぜひ社会教育課へお問い合わせください。

かがやくの歴史について

平成7年から市民の自発的な学習活動を支援することを目的に、情報提供の一環として、情報紙を発行することになりました。創刊号には、当時の市長や入間市生涯学習をすすめる市民の会会長の記事を掲載しています。その時々によって、記事の分野は様々です。例えば30号には、太鼓、陶芸、ものづくり、ボランティア、カメラマン、ウォーキングが取り上げられています。

40号まではカラーが緑色でしたが、41号からは青色となるなど、全体のレイアウトやデザインが変化し続けています。



▲編集委員会議の様子



今野 忠雄さん (豊岡)
気象のスペシャリスト

★入間市の特性は何でしょうか。
地形的にみると、気象災害の起こる確率が少なく住みやすい所ですが、近年は、猛暑日やゲリラ豪雨と呼ばれる日が多くなっています。

★予報の楽しさはありませんか。
大きなプロジェクトで適切な情報提供を行い、良い評価を得たことや、「ありがとう」「助かった」との言葉が嬉しいです。

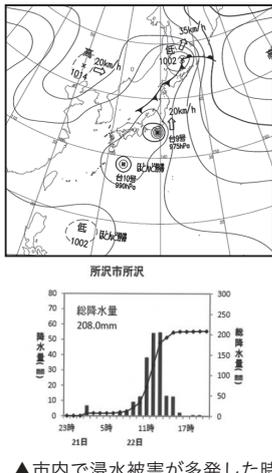
★入間市の特性は何でしょうか。
地形的にみると、気象災害の起こる確率が少なく住みやすい所ですが、近年は、猛暑日やゲリラ豪雨と呼ばれる日が多くなっています。

★入間万燈まつりの予報は、どの様にしていきますか。
3年前からボランティアスタッフとして参加しています。運営側の「来場者の安全が一番」との要望から、風の予報に重点をおいています。

★お勧めの活用法はありますか。
インターネット等で入手できる気

象情報は、日々の生活で有効に利用できます。例えば、気象庁のホームページは防災に役立つ情報が多く、大まかなりリスクを読み解くことが可能になります。さらに、常日頃から日々の天気変化を意識することで異常な気象状態に、早めの準備をすることが出来ます。

★注意点を教えてください。
近年は『記録破り』な異常気象が頻発するようになってきました。「今までなかったから」「大丈夫だったから」と過信せずに、環境の変化を認識することが必要です。これからの時期は、熱中症になる可能性が誰にもありません。対策を心がけましょう。



▲市内で浸水被害が多発した時の天気図と所沢アメダス記録

今野さんは、平成30年度に入間市民大学で『気象情報を上手に活用する』と題し講演を行いました。今でも、知的好奇心と探求心を持ち続けています。今後も、私達に最適な情報を伝えてください。

川柳サークル扇 (扇町屋公民館)
『人』を詠むから面白い

季節は無く、口語を用いて十七音で詠む『川柳』。イルミンにて『まちの先生』の講義をしたその日に、その足で、開坂武先生と受講生たちは扇町屋公民館を訪れ、サークル登録してしまっただけと言います。なんともトントン拍子に開設されたサークルです。2014年、秋のことでした。5年半経った今も、楽しみつつ腕を磨いています。時には近隣の大会や、県の大会に参加することもあります。

『扇』では、毎月2種のお題に沿って、会員たちが1ヶ月間頭をひねり、生活の中で感じた事などを五七五の十七音にまとめます。翌月に持ち寄った句は、天、地、人、客、佳作に選られますが、結果は選者の好みにもよるので凹む必要はありません。自分の感性で詠めばいいのです。この日、私の共感した「目が鼻が春が来たよと 花粉症」という句も、上位3句の天地人には選ばれていました。

選者は会員が持ち回りで担当し、誰の句かは知らされずに選びます。入選句を発表しながら作者がわかり、その意図や、皆の感想が話し合われるのですが、先生の穏やかなご指導

のもと、温かい意見交換の場となります。

先生に伺いました。川柳の面白さってなんでしょう？「対象が人間っていうところですね。人を詠みます。」いい川柳とは？「笑いと皮肉とナルホドです。ナルホドと、膝をポンと叩くような面白さがいいですね。」川柳をやっている良かっただと思う時は？「やはり入選した時に、とびきりの喜びを感じます。」

先生の雅号は、武彦さん。めいめい好きに雅号を付けます。幸せさんやまっちゃんや無印さんなど。皆さんとても仲が良く、時々お食事にも出かけるそうです。

随時、お仲間を募集しています。「入選の快感をあなたも是非！」
毎月第2木曜日
10時から12時
年会費2千円
会員13人



■『フードバンク』は発生するの？



全国で646万トン!! 売れ残りや賞味期限を超えた食品、輸送中の損傷、食べ残し等、本来食べられた筈の、いわゆる『食品ロス』の年間分量です。これは世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量の2倍を上回る量です。

『フードバンク』とは、主に企業や家庭から発生する、まだ十分食べられるのに余っている食品を寄付してもらい、食べ物を必要としている人のもとへ届ける活動をさします。

『フードバンクいるま』は『もったいない』を『ありがとう』への合言葉に集まった約50人の会員で、一昨年の5月に立ち上げた組織です。賞味期限毎に区分けされた寄贈品を工業団地の一角にある倉庫で管理し、市内の必要としている所へお届けしています。

さらに食品等を寄付していただくための宣伝活動の拠点となる『フードドライブ』は市内の協力者宅等約30カ所に常設の集積所があり、また第3水曜日には市役所ロビーでの活動、さらに広げるためにもスーパーの入り口、自治体のお祭り等のイベント会場でも活動していますが、認知度がまだ低いです。

また、一般の商工業の方にもフードバンク活動へのご協力をお願いしています。

食品の提供は市役所の生活支援課や社会福祉協議会、子ども食堂等の子ども支援活動並びに地域のサロンや福祉施設等へ依頼に基づき実施しています。

活動し始めてから、まだ日が浅く、今後の課題も多々あります。必要になった食品を持ち合せて交換する『食品トロック』もその一つです。

昨年可決された『食品ロス削減推進法』により、『フードバンク』の活動に国が支援をする仕組みが整ってきました。

企業への働きかけ等にご協力していただける方を含め、広く会員募集中。見学も歓迎です。

▼HPはQRからアクセス!



▲あつめる・とどける・つながる

■絵手紙サークル「あじさい」(藤の台公民館)



心あたたまる絵手紙を描かれています。サークル「あじさい」を紹介します。絵手紙とは、文字通りハガキに絵を描き文字を添えて贈る手紙のことです。実際に描くとなると難しいイメージを持たれる方がほとんどだと思えますが、絵を添えた手紙は、古くから親しまれていました。



▲生徒さんの作品

昨今多くの方が抱く形式は、40年程前に確立された「下手でいい」「下手がいい」というキャッチフレーズにより、多くの方に広まりました。

平成7年に発足し、海藤宏先生（かいとうひろし）の指導のもと25年目の春を迎えます。生徒さんは女性6人で、皆さん絵が好きでしたが、絵手紙は初めてでした。

絵のモチーフは、季節の野菜、果物、置物等を持ち寄りたり先生から図案を頂いたりハガキの他、色紙、和紙、立体物に描いています。描き方は、鉛筆で下書き、紺又は黒で線描き、水彩絵具等の薄墨で調子を付け言葉を添えて完成します。アクセントに千代紙や色紙を貼り付けたり、

割り箸で文字を書いたり奥深さも感じられます。色付けは、顔彩絵具、クレヨン、色鉛筆等様々です。

先生は「紙があつて、鉛筆があつて、筆があつて、色が付けばいい」と語られました。和気あいあいとした雰囲気の中、お喋りも楽しみながら自分が感じた事を自由に描きます。添える言葉もあたたかく、描いても、見ても、楽しい作品になります。

生徒さんは作品を家に飾ったり、お手紙を出したりしています。手間や時間をかけ手作りしたものを受けた方は素直な気持ちになり心も温まりますね。

活動は、藤の台公民館において、毎月第1・3火曜日10時から12時まで行っています。

筆一本有れば誰にでも簡単に楽しめます。未経験の方も大歓迎です。絵手紙ならではの面白さや充実感を一緒に味わってみませんか。



▲「あじさい」の皆さん

■七宝焼きサークルふれんず
（金子公民館）
世界で一つの宝物



世界でただ一つの物を作り続けて30年になる齊藤智砂先生は、平成の初め頃、入間市青少年活動センターで行われていた教室で七宝焼きを学びました。その後、さらに技術を磨き、金子公民館が新しくなったのを機に、友だち6人でサークル『ふれんず』を立ち上げました。

それから今日に至るまで、自然豊かなこの地区で、月2回定期的に七宝焼きの制作活動を行っています。

この七宝焼きとは、素地に金・銀・銅などの金属を用い、表面にガラス質の七宝釉薬を盛り付けて、焼成したものです。つまり金属にガラスを溶着させたものです。今はほとんど銅板を使用しています。七宝釉薬は、ガラス質の粉で出来ていて、多数の色があり、絵の具のように混ぜ合わせる事は出来ません。



▲アゲハチョウ型のブローチ



▲様々な形の作品



▲たくさんの七宝釉薬



▲焼窯に入れて焼いています



▲編集委員も七宝焼きに挑戦！

例えば、ペンダントや、ブローチを作る時は、銅板の表・裏に七宝釉薬を乗せ、その上にフリット（上にのせる飾りの一種）を付け、十分に乾かし、800〜850度の焼釜にいれます。釉薬が溶けて銅板を取り出したら、釜の上に乗せて熱を冷まします。きれいにできない場合は、ヤスリやグラインダーで仕上げ、滑らかにして型にはめて接着剤を塗り、出来上がりです。七宝焼の種類は17種類以上あります。一色塗り、多色模様、フリット七宝、金銀箔など。

今までの数えきれない程の作品はアリットの工芸展に出品したり、金子公民館の文化祭で、チャリティーバザーを行い、売上げ金を社会福祉協議会に寄付しています。

愛媛県新居浜市の金子公民館（現

在は地域交流センター）と、入間市の金子公民館は、同じ公民館名という事から古くから姉妹館交流事業をしています。

今年は、新居浜市の方がお見えになるので、金子中学校の校章に使われているアゲハチョウ型のブローチを作り、プレゼントする予定です。伝統工芸品を通して、素晴らしい交流が出来ているのに感動しました。

これからも、良い作品を作り続けてください。

※体験コーナーは、一、〇〇〇円で。興味のある方は、足を運んでみてはいかがでしょうか



▲齊藤先生（左）と代表の酒川さん（右）

●我が家の庭は花盛り！「見た目が大きく豪華であればパンジー。小ぶりかわいらしいければ「ビオラ」と見分けているそうです。（IS）

●「本紙キャッチフレーズ」の意向に沿った紙面作りを試みたところ、ご本人の希望に沿った内容になりました。（SK）

●私の母は85歳。現役で書道教室をやっています。生涯学習精神の鑑のような人です。取材したいくらい。笑（TE）

●宇宙が無限であるように子どもたちの夢も、限りなく広がっています。一人一人の個性を引き出し、花を咲かせる事が出来たら、すばらしい！（HT）

●暖かな春の陽気に後押しされるかのように、桜の開花をワクワクしながら新たな挑戦をしています。（MF）

◎生涯学習情報紙「かがやく」
広告募集!!

「かがやく」は年2回発行し、広報いるまとともに全戸配布する生涯学習情報紙です。各種宣伝や募集など、広告を掲載してみませんか？

●お気軽にお問い合わせを！
担当：市教育委員会社会教育課
TEL 04-2964-1111(内線4125)



企画編集：「かがやく」編集委員会
発行：入間市教育委員会社会教育課

お問い合わせ 入間市教育委員会社会教育課
事務局 〒358-8511 入間市豊岡 1-16-1
TEL 04-2964-1111 (内線4125) FAX 04-2964-4841



編集委員（五十音順）

飯島静江

島田耕作

瀧澤枝里

橋本敏子

森田文江

この発行物は資源ごみ一雑がみとして出せます。